

挑戦と変革の歴史

History

商船三井は130余年の歴史の中で、時代の要請と顧客のニーズを先取りし、時に様々な困難を克服しながら、世界最大級の総合海運企業へと成長してきました。それを支えてきたものは「挑戦と変革」の精神です。これからもこの精神を持ち続け、次の130年へ前進していきます。

1884年

大阪商船の誕生

当社の創業は1884(明治17)年、瀬戸内の船主55名が93隻の船を現物出資して設立した大阪商船にまでさかのぼります。



1973~1985年

変動相場制導入・プラザ合意による急激な円高・日本籍船の競争力低下

1973年に米ドル為替は1ドル=360円の固定相場制から変動相場制に移行しました。さらに1985年の「プラザ合意」により1ドル=240円前後だった円為替相場は、1年後には120円台にまで上昇しました。円高により日本籍船の競争力が急激に低下したことから、当社では日本人船員と外国人船員の混乗を進め、日本人船員の大幅な削減を行うこととなりました。

1942年

三井船舶設立

1964年

大阪商船と三井船舶が合併し、大阪商船三井船舶発足

1961年

機関室を操舵室から集中制御する世界初の全自動化船「金華山丸」竣工



1983年

日本初のメタノール専用船「甲山丸」就航

1968年

フルコンテナ船サービス開始



「あめりか丸」(700個型)

1965年

日本初の自動車専用船「追浜丸」就航



1945~1970年

第2次世界大戦による日本商船隊の壊滅と復興

日本の民間商船隊も軍事輸送に徴用され、日本全体で約2,400隻の船腹と3万人以上の乗組員が失われました。その後、日本が敗戦から立ち直り、鉄鉱石や石油などの資源を輸入し自動車や電化製品などを輸出する貿易立国として復興する中で、当社も海上輸送を通じて日本経済の発展に寄り添いながら、事業の多角化・専門化を進め、多様な船舶を持つ総合海運会社へと発展してきました。

1984年

LNG船「泉州丸」就航

電力会社を中心に環境負荷の低い発電エネルギーとしてLNG(液化天然ガス)の輸入需要が増加しました。LNGはマイナス162度での輸送が必要となる、大変輸送難易度の高い貨物です。当社は1983年にLNG輸送分野に進出し、現在では発注残を含めると関与隻数を世界最大規模の94隻(2018年3月末時点)にまで拡大しました。



2012年

世界初のハイブリッド自動車船「FEMERALD ACE」竣工

2010年

FPSO事業へ参画

1989年

ジャパンラインと山下新日本汽船が合併し、ナビックスライン発足

2004年

ダイビルを連結子会社化

1999年

大阪商船三井船舶とナビックスラインが合併し、商船三井発足

1996年

ケミカルタンカー船社東京マリン(現社名:MOL Chemical Tankers Pte. Ltd.)を連結子会社化

1995年

コンテナ船サービスで初のアライアンス(戦略的国際提携)開始

コンテナ船事業では、船舶の建造・航路の運営などに膨大な投資を要します。当社は航路網を補完し合える、米、欧、香港の海運会社とともに、世界的規模で提携するアライアンスを業界で初めて開始し、コンテナ船のスペースをシェアするとともに、寄港地や寄港頻度の拡充を通じ、顧客サービスの充実を図りました。

2000年代前半

資源・エネルギー輸送分野への積極投資

資源・エネルギー輸送を得意としていたナビックスラインとの合併(1999年)を経て、中国の経済発展と資源需要増を見越してこの分野に積極投資を行い、鉄鉱石、石炭などを輸送するドライバルク船、原油タンカーやLNG船の整備を進めました。

2018年3月

世界初の砕氷LNG船プロジェクト
当社第1船「VLADIMIR RUSANOV」竣工



2017年

アジア船社初のFSRU保有・運営
「MOL FSRU Challenger」竣工



2016年

世界初の大型エタン船
「ETHANE CRYSTAL」竣工

2000年代半ば~

中国爆食経済とその終焉

資源・エネルギー輸送分野での積極投資が功を奏し、中国爆食経済に牽引された海運ブームにより、2007年度には当社は史上最高益を計上しました。しかしその後の世界経済成長減速と船腹供給過剰を背景に、海運市況は一転して下落し、低迷が続きました。激変した事業環境に対応すべく、当社はドライバルク船部門を対象に構造改革を実施したことに加え、邦船3社によるコンテナ船事業統合を決定しました。

2018年4月

邦船3社によるコンテナ船事業統合会社 Ocean Network Expressが営業を開始

(▶ P.11、P.14に関連情報)

商船三井、日本郵船、川崎汽船は、グローバルなネットワークと競争力の強化を目指し、2016年にコンテナ船事業の統合を決断しました。2017年に設立された統合会社「Ocean Network Express」は、約149万TEU、世界シェア7%、発注残を含めると業界第5位の運航規模を基盤とし、2018年4月より営業を開始しています。

